［拠点形成概要及び採択理由］

機　　関　　名	東京外国語大学
拠点のプログラム名称	コーパスに基づく言語学教育研究拠点
中核となる専攻等名	地域文化研究科地域文化専攻
事業推進担当者	（拠点リーダー）峰岸　真琴　　教授　　外１２名

［拠点形成の目的］

本拠点形成は，人文社会科学分野では日本で有数の教育研究機関である東京外国語大学が，言語科学領域における国際的・先端的な研究者を効果的に育成することを目的とする。とりわけ大学院地域文化研究科を基軸とした教育プログラムを充実し，国際的に展開を図ることにより，世界諸地域の言語文化の多様性に通じた，複眼的視野を持つ言語研究者・言語教育者を養成することを目ざす。

本学は，地球社会化する多元的世界の共生に貢献しうる優れた人材の育成をその存立理念・使命としている。特に多様な社会文化背景をもつ世界諸地域の言語を対象とする言語学分野および言語教育学分野においては，日本国内のみならず全世界的にも比類のない研究資産と教育資源を有しており，すでに，**21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」**の顕著な学術成果が蓄積されている。本拠点は，その成果を継承するとともに，その活動を通じて形成してきた国際共同研究体制を強化し，全学的支援の下に，その果たしうる学術的・人材育成的機能を充実する。

本拠点の形成により，人材育成面では大学院教育の刷新を行い，研究者・教員と大学院生との協働的研究活動をさらに実質化し，その活性化を促すことが可能になる。特に，大学院生を対象とした総合的教育プログラムを充実させ，フィールドワークおよびコーパス構築・分析，さらに国内外での言語教育実習を，三つの主要な教育研究上のアプローチとして位置づけ，これらの機会を大学院生に与えることにより，若手研究者の効果的な育成が可能になる。

また研究活動面においては，日本国内および国外の主要な研究機関等との学術的コンソーシアムや連携により，アフリカ，ユーラシアから北米に至る広域に分布し，類型的にも多様な諸言語に関する先端的な研究を展開し，「フィールド調査から言語コーパス構築へ，さらにコーパス分析から言語教育への応用まで」という，言語研究全般にわたる研究上の連続性を強化する。この成果は，その主要部分を国内外に効果的に発信することにより，日本の諸研究機関が果たしうる国際的学術貢献を，本学を中核として強化することができる。

［拠点形成計画の概要］

本拠点では，言語研究分野で先端的な成果を得るため，次の三つの研究アプローチを主軸とする。すなわち，21世紀COEの成果のひとつである，①フィールドにおける実際の言語運用データの収集・調査作業，②多様で膨大な言語運用データのコーパス化と分析作業，③分析結果から言語教育分野への応用的還元である。これらの研究アプローチを相互的に連関させた教育研究プログラムを実施することにより，言語理論のモデル化や一般化に留まらない，言語運用の実態に基づいた先端的言語科学領域の若手研究者養成を可能にする。

本拠点の教育研究プログラムは上記三つの研究アプローチに対応した，以下の三つの教育研究プログラムを計画・実行する。

1．**フィールド言語学**：世界の主要言語だけでなく少数言語を含む類型論的に多様な諸言語と文化に対する複眼的視野を臨地調査研究によって養う。また様々な言語情報（現地の録音資料や文献，テキスト）を収集するための方法を研修させる。このための方法論（調音音声学，記述言語学，フィールド調査法など）を習得させる教育プログラムを設計・実施する。

2．**コーパス言語学**：蓄積される膨大な言語運用データを分析し，研究目的に応じてコーパス化し，それを記述・分析する手法を習得させる教育プログラムを開発・運用する。

3．**言語情報学**：上記二つの研究アプローチによる成果を，情報工学の支援を得て，言語教育法の高度化を実現する。世界各国の言語教育理論と実践を批判的に検証しつつ，自然会話や第二言語教育などの教育実践の場から得られる言語運用データコーパスの解析成果を活用して，多言語・多元的文化の視点を配慮した革新的な言語教育方法論を開発・実践させる。

この教育研究プログラムは，以下の三点において重要である。

第一に，若手研究者に**研究上の複眼的視野**を備えさせる点である。地球規模で拡大する英語等による「標準化」が進む現代社会であればこそ，世界諸地域の言語と文化の多様性を理解し，複眼的視野をもった若手研究者の育成が切に望まれている。

第二に，若手研究者に言語研究および言語教育研究における**実践トレーニング**の機会を提供する点である。コーパス構築作業と並行してフィールド調査の実践および言語教育の現場を経験することにより，日本国内外で活躍の場を得るコミュニケーション能力に優れた研究者・教育者を養成できる。

第三に，本拠点形成により教育研究の国際連携を強化し，日本の言語研究・言語教育分野の高度化を推進し，国際競争力を備えた**先端的な言語研究および言語教育研究分野での国際的中核拠点**として，東京外国語大学がより実質的な学術的貢献と研究者育成の責任を果たすことが期待できる。

機　　関　　名	東京外国語大学
拠点のプログラム名称	コーパスに基づく言語学教育研究拠点

［採択理由］

２１世紀ＣＯＥプログラムの成果を踏まえ、外国語大学としての特性を十分に活かし、世界諸地域の言語、文化、社会に関する教育、学術的研究の基盤をフィールド、コーパス、言語情報の３レベルに基づく実践的な拠点として、大学の将来構想の中心に位置付けられ、更なる発展を目指す優れた拠点形成計画である。

人材育成面にも実績があり、キャリアパスも明確に示されている。世界の少数言語を射程に入れていることも高く評価できる。フィールドワーク、コーパス構築、言語情報学の３つの柱に沿って、それぞれ計画がよく練られており、国内外への若手研究者・大学院生の派遣、実践トレーニングプログラムの効果は大いに期待できるが、３分野を統合する教育研究の仕組みについては、工夫が望まれる。